

キリスト教研究室ニュース

昭和40年度研究会報告

発表者及び講題

第九回 2月19日

名出 望「Conzelmann, *Die Mitte der Zeit* をめぐって」

第十回 7月19日

三辺清一郎「自由主義経済の底を流れるもの」

第十一回 9月24日

藤間 繁義『オーストラリアにおける教会合同案をめぐって』昭和40年度宗教学会
大会報告及び中間発表紹介

第十二回 10月22日

木村 信一「CMSの初期日本伝道」

第十三回 11月19日

藤倉 恒雄「最近米国神学界の一傾向——ポストン・パーソナリズムをめぐって」

第十四回 1月28日

加藤 泰秀「聖書の権威と教会」

研究室総会

9月17日研究室総会を開催。

決議事項

1) 研究室諸役員を次の通り選出した。

室長—八代 崇 幹事—藤間繁義, 名出望

研究誌編集委員—室長, 幹事, 三辺清一郎, 山内貞男

2) キリスト教論集 第二号発行の件。

原稿締切—12月15日

発行予定日—昭和41年2月

個人消息

山口光朔教授は、7月中旬、ベトナム問題をアメリカのキリスト者に訴えるため、大村勇、西村関一、飯坂良明、野宮初枝の諸氏と共に渡米、各地で日本人キリスト者の意向を伝えて、8月下旬帰国。なお、その報告が近く、桃山学院大学 新書第一巻として、「ベトナムに平和を」の題名のもとに出版される。

山崎謹一郎教授は本年4月桃山学院高等学校並びに中学校の校長に就任。

Craighill 講師は、本年3月学院を辞任され、4月21日家族同伴で帰国された。今後はハーバード大学大学院で東洋美術を研究される予定。

藤倉恒雄チャプレン（高校）は、2年間の米国留学を終え8月帰国された。

三辺清一郎教授は、山崎教授に代って、今度人文科学研究所長に就任された。